

WORK/VS KF#

ワーク / ビース ケーエフシャープ

Size	18×7.0~14.0J / 19×7.5~15.0J / 20×7.5~15.0J / 21×7.5~14.0J
H-P.C.D.	5H-100 / 5H-114.3 / 特殊P.C.D(5H-98~120.65)
Color	Light Greyish Silver / Brilliant Silver Black
Price	¥86,900~¥159,500



ナローだと9.5J 履きがリミットとなるGR86/BRZだが、絶妙なラウンド加減で末広がりにスポークを伸ばしていくKF#はリム深さに左右されない存在感を足もとに放つ。スポークサイドの造形で強調するスタイリッシュスポーティな運しさが広角に映える部分も見逃せない。



フラットな面使いで仕上げられていたKFに対し、KF#はエッジの利いたラインで末広がりのスポークを力強く、そしてスタイリッシュに演出。存在感あるボディにも過不足のないスポークデザインとする。

中心部からナットホールを突き抜けるようにしてフランジまで伸ばされていく足長なデザインはKFを踏襲。エッジの利いたスポークサイドのデザインでセンターパートの繊細な造形美が一層極まった。

最旬ホイールで最高のスタンスを!

NEW WAVE RIMS

スタンスにおいて最重要アイテムとなるホイール!

ここで登場するのは今年のオートサロンで発表された絶好調のワークVSシリーズのKF#が登場。

大径20インチもいいが、本誌的においしいのは国産スポーツカーにちょうどいい19インチ。

その魅力に迫る!

Source: ワーク 06-6746-2859 www.work-wheels.co.jp
Sp thx: KRC ジャパン 972-805-0829 www.kind-red.com
Photo: Kamishinjo Photo Center Text: Yonbariki



足元を一閃するハイインパクト

こだわりのエアロメイクで存在感あるボディラインへ仕上げるほど悩ましくなるのが、ボディと足もとのバランスだ。とくにスポーツカーでは躍動感や力強さを打ち出すためにスポークデザインを最有力候補に挙げることとなるが、いくらリム深さやツラ加減をキメたとしても……ボディに対してのスポークバランスに過不足があれば足もととはイマイチ締まらない。

そこで注目してもらいたいのは、スポーツセダンを筆頭に人気を集めたワークの名作3ピース「VS KF」のアップデートリバイバルモデル「VS KF#」だ。中心軸からナットホールを突き抜けるようにして末広がりにフランジへ伸ばしていく独創的な足長スポークはKFそのままに、KF#はスポークサ

イドやラウンド加減をブラッシュアップ。繊細かつ大胆なスポークを存分に際立たせる立体的造形美が新たにもたらされ、広角にスタイリッシュスポーティな足元魅せを果たす一本へと進化した。

さて、そんなハイインパクトのマッチング事例を指し示してきたのが、スタンスシーンでおなじみのKRCジャパンだ。アグレッシブフェイスやフローティングディフューザーでボディラインを際立たせたGR86へ19インチ・フルリバースのKF#を与え、華奢すぎず鈍重すぎない足元を構築。リム深さで圧巻の奥行き感を強調するワイドはもちろん、深度が限られたナローでも足元を一閃する仕上がりで打ち出し、KF#がライトウェイトスポーツにも好相性な一本であることを実証した。

KRCの新作GR86ワイドボディ!



スーパースポーツの風格を注入するためにロングノーズのファングデザインで仕上げられたフロントバンパー。サイドまで回り込むエッジの利いたフェンダーが躍動感を際立たせていく。



重厚かつ精悍なボディラインにドンピシャとなるのが、末広がりの5本スポークでスタイリッシュスポーティな足元を飾るKF#。フロントを9.5J履きとして、FRらしいリアワイドの力強さを強調した。



- OWNER: SEIYA (@s-gr86_10th)
- BASE CAR: 2022 TOYOTA GR86
- EXTERIOR: KRC (FRONT BUMPER / SIDE DIFFUSER / REAR DIFFUSER / WIDE FENDER)
- WHEELS: WORK VS KF# (F=19 x 9.5J+1 / R=19 x 11.5J-24)
- TIRES: MENVERA (F=245/35-19 / R=275/35-19)

バンパーボトムから鋭く牙を立ち上げたようなアグレッシブなフェイスデザインにフロント片側50mm、リア片側90mmワイドのグラマラスなフェンダーラインを備え、GR86/BRZヘスーパースポーツの風格をもたらしたKRCジャパンの新作ワイドボディスタイル。走りの一台としての躍動感を全方位へ強調するためにワイドフェンダーのダクトワークへこだわったという一台は、ライトウエイトスポーツの車格を超越するためにフロントバンパー両サイドへフロントフェンダーが鋭く巻き込んでいくような有機的デザインとしたのが最大のトピックだ。ダクトワークやフローティングディフューザーといったKRCジャパンらしさは踏襲しつつ、新境地のスタイリングを切り開いている。



KRCジャパンのアイデンティティであるダクトワークやフローティングディフューザーは変えることなく、GR86/BRZにスーパースポーツの風格を注入したワイドボディキット。絶妙なダクトワークで躍動感もしっかり高めた一台だ。



新作開発中と知り、GR86をオンリーワンの一台へと仕上げるためにワイド化を即決したSEIYAさん。当初は左右デザイン違いのホイールマッチングを考えていたが、KF#のカラーチェンジで立体感が異なる足元を打ち出した。

WORK VS KF#



純正のボディラインを崩さないワイドボディ化が図られていたこともあって、ダクトワーク＆フローティングディフューザーで構成するリアセクションはナローボディとも好マッチングな仕上がりが。



ロングノーズで存在感が際立つフロント開口部にも負けない躍動的な足もとをKF#で構築。スリムスポークでは華奢に、ファットスポークでは鈍重となる足元を絶妙なバランスで際立たせた。

ナローも合わせてよろしく!

- OWNER: YASSY (@s_hot_brz)
- BASE CAR: 2021 SUBARU BRZ
- EXTERIOR: KRC (FRONT BUMPER TYPE B / SIDE DIFFUSER / REAR DIFFUSER), AVEST
- WHEELS: WORK VS KF# (F&R=19 x 9.5J+40)
- TIRES: DIMAX R8 (F&R=225/35-19)
- SUSPENSIONS: AIRMEX



ナローボディのままでは前後ともに9.5J履きとなるが、立体的造形美でスポークディスクの存在感を広角に押し出すことができるKF#ならリム深さに頼らずとも足元の迫力は十二分に打ち出せる。



使い勝手とスタイリングの軽快感を考え、ナローボディをチョイスしたYASSYさん。当初はマルチスポークを予定していたが、迫力あるスタイルに負けない頼もしさを足元に引き出すためにKF#をマッチングしたとのこと。

GR86/BRZのワイドボディを完成させたところ、ユーザーからの開発要望が数多く寄せられたことで急きょ追加されたのがナローボディだ。開発当初はナローへの落とし込みを一切考えていなかったそうだが、純正のボディラインを崩さないデザインでワイド化へアプローチしていたこともあってデザイン的なリメイクはサイドディフューザーのナロー化のみ。鋭い牙をイメージさせてスーパースポーツの風格を注入するフロントバンパーなどはそのままに、ナローボディでも堂々たる存在感を放つスタイリングを見せている。基本パッケージが変わらないため、ワイド化へステップアップする際もワイドフェンダーとサイドディフューザーの追加投入だけでOKだ。